

CSR活動を通して“奉仕”と“創造”を実践していきます。

「平和堂CSR報告書2016」に対し、前年を大幅に上回る570名の読者からアンケートの回答をいただきました。

2016年度は、当社を取り巻く様々な課題を把握、整理したうえで、あらためて平和堂の経営理念である「5つのハトのお約束」をマテリアリティ(重要課題)と特定し、「奉仕のハト」「創造のハト」「感謝のハト」「友愛のハト」「平和のハト」の5項目に章立てしました。

また、トップメッセージとして、社長と平和堂社員の意見交換会を開催し、掲載しました。その他、「あなたの街の平和堂グループ」と題しグループ会社の取組みも紹介しました。



CSR報告書2016

「わかりやすい」
2.8
ポイントdown

「内容の充実」
2.0
ポイントdown

トピックス 読者のお声

感想

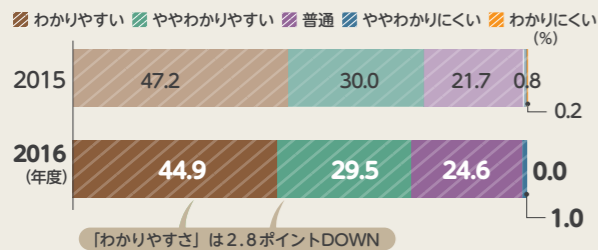
- 写真やイラストが多用されており、読みやすく、理解しやすかった。
- 環境配慮型商品について、もっと教えてほしい。
- 年々高齢者の方が増加するので、認知症の方等の対応は素晴らしいと思った。
- E-WAI商品のコンセプトや商品開発のパイヤーの思いを改めて知ることができた。
- ハイライトページで全体像がよくわかった。
- 今後の課題や問題点をあげ、それに対する対策を掲載してほしい。

期待

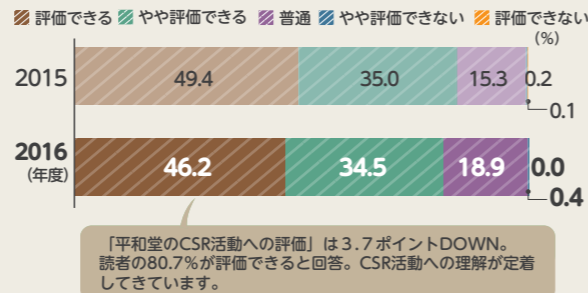
- 地域活性に貢献してほしい。
- 食育活動やエコピース活動を今後もっと進めて、より地域のお客様と店が触れ合う活動に力を入れていくとよい。
- 女性が働きやすい職場の取組み。
- 従業員全員がもっともっと活動に参加する事を期待する。
- 多様な働き方の推進をさらに進めてほしい。
- E-WAI商品の衣料・住居関連品への拡大。
- ホームサポートサービスの地域拡大。

アンケート集計結果

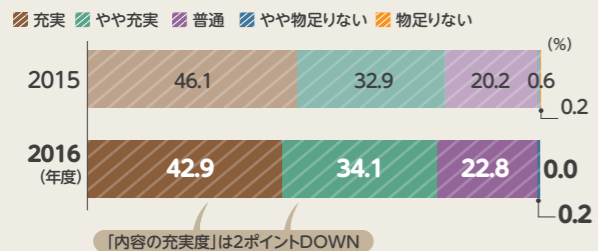
わかりやすさ



平和堂のCSR活動への評価



内容の充実度



印象に残った、または興味をもたれた内容

ベスト5

- ① トップメッセージ (250人)
- ② 地産地消 (204人)
- ③ 平和堂ホーム・サポートサービス (201人)
- ④ お客様満足度の追求 (192人)
- ⑤ 平和堂グループにとっての重要事項 (182人)

(回答者数570名 内訳:社員488名、学生・お客様など40名、株主・投資家様6名、お取引先様7名、その他29名)

商品物流から地域サービスへ

すべての企業や組織が、どこまで先を、どこまで広く、時代認識を擁しているのかが問われています。これは変化の速い時代を生き抜くため、平和堂のCSR報告書にも、数年前あたりから持続的な企業経営を強く意識する姿勢が現われています。

では、時代認識のハイライトは何なのか。全編を通じて浮かび上がるのは、商品物流の担い手から地域社会支援者への変貌で、平和堂は経営体としての目標の中にモノの中継ばかりでなくサービスの提供にも取り込みはじめ、その比重を増しつつあるということです。

地域の共有資産形成へ

より高いレベルの安心安全を求める社会の要請に応じて、モノの品質管理や衛生管理のレベルを向上させていることもサービス強化の一面と言えます。しかし、モノから離れたホームサポートの支援システムはある意味で今後は無形の共有資産として地域に根付くことが期待できます。対象とする地域に県内世帯数の79.8%が含まれているという試算まで示されていて、経営体としての決意のほどが伝わります。こうした地域ニーズの現状を把握し、新しいビジネスへの展望が得られるなら、それこそ経営体の持続可能性に通じるのは確かなことで、ハトのマークのケアセンターが登場しても不思議ではない、そんな予感まで抱かせるものがあります。そう

第三者意見を受けて

「平和堂CSR報告書2017」への評価と貴重なご意見を賜り、ありがとうございました。

平和堂ホーム・サポートサービスおよび報告書全体の見やすさ、わかりやすさにおき、一定の評価をいただきました。今後もさらに内容の充実に努めてまいります。

また、弊社CSR活動の取組み優先順位や、「社会」や「地域」を拡大しての展望等、今回賜りましたご意見をふまえ、平和堂のCSR活動方針や内容が、より「わかりやすく」、「読みやすい」報告書としてお伝えできるよう、次回のCSR報告書に反映してまいります。

弊社は、おかげさまで創業60周年を迎えさせていただきました。この節目の年に、社是である「商業を通じて豊かな暮らしと文化の向上に貢献」する事を再認識し、持続可能な社会の実現のために、今後もCSR活動の推進に取り組んでまいります。

滋賀県立大学 名誉教授
土屋 正春

プロフィール

1943年生まれ。滋賀県立大学環境科学部長、副学長を経て現在は名誉教授。水資源・環境学会会長、公益財団法人千里リサイクルプラザ研究所所長・総括主任研究員、一般社団法人滋賀グリーン購入ネットワーク名誉会長



した意味では、次世代のニーズの掘り起こしはどうしているのか、どうするのか、も知りたいところです。

より拡大した社会と地域を

平和堂CSR報告書は、全体を通じての見やすさ、分かりやすさにおいては、編集上の工夫で業界トップクラスの域に達しています。また、今号の一大特色は、見開き2頁に整理された「CSR活動一覧」の登場です。ここには「CSR」が単にプラスアルファとしての社会への貢献ではなく、あくまでも核心は持続できる社会にするための本業を通じた責任なのだという強い認識が読み取れます。

今後の課題が整理されて来たので、取組みの優先順位がどうなのかが気になるところです。挙げられた中には「ISO26000」や「SDGs」といったグローバルな目標があるのに気づくと、平和堂としては「社会」や「地域」をさらに拡大して考えるべきなのですが、そうした展望がほとんど述べられてはいないのが残念なところです。



専務取締役管理本部長

夏原 行平